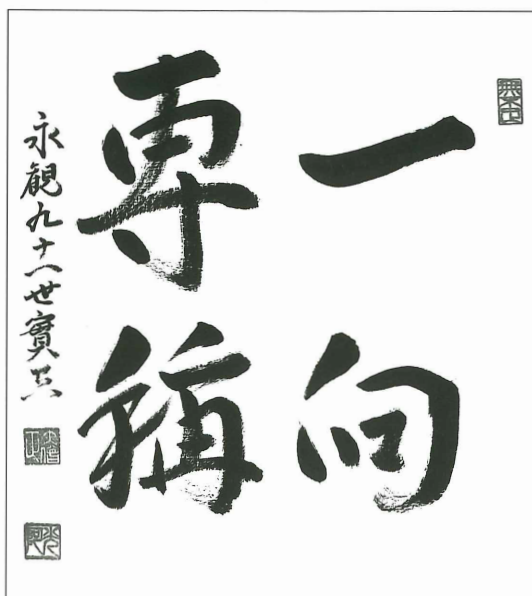


一向専称



われ浄土宗を立つる意趣は、
凡夫の往生を示さんがためなり

『一期物語』

凡夫と聞くと、ただ凡庸な人と思われていますが、深い意味があります。人は誰しも自分が可愛くて、自分の幸せを最優先しています。そのために人とぶつかることがあります。

なぜ「自分ばかりが損をする」、なぜ「自分ばかりが苦しむ」と、「自分」に囚われている人を「凡夫」というのです。

悲しいかな、わたしたちはどこまでいっても、自分が愛おしくてどうにもなりません。そのために絶えず貪り、怒り、何一つ大切なことがわからずに、いつも迷っています。いくらお釈迦様が心を平安にする方法を教えて下さってもどうしようもないのです。

ただひとつ阿弥陀様の本願に乗せられてこそ、平安を得ることができる、法然上人は浄土の教えを開かれたのです。

令和六年は立教開宗八五〇年

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我儼昭猊下のご染筆です。前々号の色紙は、滋賀県大津市在住山極波江様に進呈します。ご希望の方は八方キで住所・氏名・希望号数を明記の上下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。



称名念佛


 稱名念佛

淨土法王無尽



お念仏は心で念^{おも}うもの？ 称^{とな}えるもの？

『十二問答』

大変信仰心の篤い檀家のご婦人がおられます。

いつも熱心にお参りをされますが、「南無阿弥陀仏」と声に出して称える姿を見たことがありませんでした。その理由を尋ねると「周りにお人がいると恥ずかしい」とのことでした。

「お念仏は、南無阿弥陀仏と声に称える方がよいか、心に阿弥陀仏を念じる方がよいか。」

と、ある人が法然上人に尋ねると、「どちらも往生できますが、ただ、阿弥陀さまは、『私の名を声に出して称えてくれよ』とおっしゃられたので、声に出して称えることが仏の願いにかなうことですよ。」とお勧め下さいました。

令和六年は立教開宗八五〇年

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我儼昭猊下のご染筆です。前々号の色紙は、愛知県豊明市在住吉田真一郎様に進呈します。ご希望の方は八ガキで住所氏名希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。



法爾自然



法爾自然

永観九十八世實六



法爾自然

ある人が法然上人に、

「念仏のとき、眠くなってお勤めを怠ってしまうことがあるが、どうすればよいでしょう」と申したところ、「目が覚めたときに念仏なさい」とお答えになったという。たいそう尊い。

また、「疑いながらも念仏すれば、往生する」ともおっしゃったという。これもまた尊い。

これは『徒然草』（第三十九段）において兼好法師が、法然上人のことを語っておられるくだりであります。

法然上人のお念仏は、むずかしい決まりがある教えではありません。今の自分のあるがまま、悲しいときも、怒りがこみ上げてくるときも、もちろん嬉しいときも、素直な気持ちで「南無阿弥陀仏」と称えればよいのです。

令和六年は立教開宗八五〇年

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我儼昭猊下のご染筆です。前々号の色紙は、京都府京都市在住仲田哲也様に進呈します。ご希望の方は八ガキで住所氏名希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。



出世本懐


 出世本懐

禄永九十一世實公



立教開宗

法然上人が、九条兼実公の別邸に行ったときに、一人の僧と会った。

その僧が、法然上人に「浄土宗を立てられたのですか」と尋ねたら、「はいそうです」と返答をされた。「では、浄土宗を立てる依り所にされたのは、どの経文ですか」と聞いたので、法然上人は「善導大師が書かれた観経疏の中の一文によってです」と答えた。

その文とは、「お釈迦さまは観経の正宗分で、その利益を説いたのだが、阿弥陀仏の本願に合わせると、お釈迦さまの真意というの、衆生に対して阿弥陀仏の名を称えさせることにある」という文を指す。

つまり、お釈迦さまがこの世に誕生されて、本当にお説きになったかったのは、人々に「南無阿弥陀仏」と称えさせることだったのだ。

お釈迦さまの真意をわかったことで、法然上人は念仏往生の確信を持って立教開宗をされた。

令和六年は立教開宗八五〇年

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我儼昭猊下のご染筆です。前々号の色紙は、愛知県刈谷市在住早川勝美様に進呈します。ご希望の方はハガキで住所氏名希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。



機法一体

一機
一體

永観法主實印



「念仏の行、

水月を感じて昇降を得たり」

『選択本願念仏集』

母の手を握りながら「大丈夫だからね」と、
声をかけ一緒にお念仏をしました。間もなく、
穏やかな顔をして母は、息を引き取り
ました。

「月は降りずして水面に映り、水は昇らず
して月を映す」月を阿弥陀様のお慈悲に、
水を私たちの心に喻えて、念仏によって一
つとなるとおっしゃっています。

私達と阿弥陀様は、遙か十萬億仏土の離
れた距離にあります。しかし、お念仏によつ
て、その果てしない距離を通い合うことが
できるのです。

たとえ私達がどこにしよう、阿弥陀様
は応えて下さいます。念仏を称えれば、い
つ何時でも阿弥陀様を心に宿すことが出来
るのです。

令和六年は立教開宗八五〇年

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我儼昭親下のご染筆です。前々号の色紙は、京都府向日市在住安見文字様に進呈します。
ご希望の方はハガキで住所氏名希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。



歡喜踊躍

歡喜踊躍

淨土法王尊



河内国に天野の四郎という男がいた。盗賊だ。盗みを目的に忍び込んだ館で、法然上人の説法を聞いた。その説法に、心底惚れ込んだ四郎は、法然上人に頼み込んで弟子となり、教阿という法名をもらった。

高齢になった教阿は、関東に向かう際に、法然上人に向かつて、こう言った。

「関東に行きましたら、もう法然上人さまとは再会できないだろうと思います。そこで、最後に教えて欲しいことがあります。

お念仏の極意とは、何でしょうか」

「念仏に極意などはない。ないのだが、一つ言うとなれば、むかし、私が真夜中に念仏を称えていたことを、覚えているか」

「はい、覚えております」

「念仏は、他人に聞かせるのではなくて、自分自身が喜んで称えることだ。他人に聞かせるという飾り心を捨ててみることで。飾り心の念仏は虚仮の念仏だ」

「ありがとうございます。自分自身が喜ぶお念仏を、これからも続けていきます」

令和六年は立教開宗八五〇年

総本山 永観堂 禅林寺



共生
極楽共生
極楽

浄土法主 永観堂



お互い様

私の妻は、国指定難病だ。もう、しゃべることができない・口から食べることができない・動くこともできないという状態だ。ただ、身体は動かなくても、記憶力も判断力も、そして意志もしっかりしている。

この妻に対して、「可哀想だね」と話しかけてくれる人がいる。この言葉を聞く度に、可哀想なんだろうかと、私はいつも感じていた。

生きていこう、しっかりしていこうという思いは、確実に強い。お正月の書き初めでも、「生」という文字を選んで、介護スタッフに書いてもらっていた。

「可哀想」という人には、「妻は、バラリンピックの選手なんです」と伝えるようにした。リハビリに全力で取り組んでいる姿は、アスリートそのもの。だから、周囲の人たちと応援していける。

そして、私も生きる力が湧く。

令和六年は立教開宗八五〇年

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我儼昭猊下のご染筆です。前々号の色紙は、兵庫県姫路市在住宮脇伸子様に進呈します。ご希望の方は八カまで住所氏名希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。



自行化他

自他化他

永観九十九世實光



「俊鳥林に栖まず」

すぐれた鳥は林に安住してはいないという一方、凡夫は自分のおかれている環境が良きにつけ悪しきにつけ

そこから「一歩前へ」という意識を持ちにくい

大乘のスローガンは「上求菩提」

自らは仏の悟りを求めつつ「下化衆生」

他の衆生を教化し救済せんとする菩薩行

逃避的な自己中心の殻を打ち破り

苦悩し生きる人々と共に仏道を歩んでいくという

大乘のフットワークを身に付け飛び出していく

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我儼昭猊下のご染筆です。前々号の色紙は、岐阜県可児市在住工藤葉子様に進呈します。ご希望の方は八ガ玉で住所氏名と希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。



怨親平等



怨親平等『過去現在因果経』

ドラマで
勧善懲悪のシナリオは
子供にも大人にも人気がある

しかし

報復に溜飲を下げるのは

劇中だけのことにしたい

世界のあちこちでは

互いが怨みを晴らさんと

今もどこかで争っている

「怨親平等」

敵も味方もなく

共に愛憐の心をいだいて

『法句経』にいう

「怨みを捨ててこそ息む」を

胸に刻み

平和を希求していこう

令和六年は立教開宗八五〇年

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我巖昭猊下のご染筆です。前々号の色紙は、岐阜県不破郡在住栗田寛史様に進呈します。
ご希望の方はハガキで住所氏名希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。



非有非空



中道

お釈迦様の弟子の一人に、ソーナという琴を弾くのが大変上手な者がおりました。彼は熱心で、毎日激しい苦行に励んでいました。なかなか悟りを得られず、ついに教団を去る決意をお釈迦様に告げます。すると、お釈迦様はおっしゃいました。

「琴は糸を張りすぎても、また緩くても良い音が出ないであろう。丁度良い張り方をして初めて良い音が出るのだ。悟りに至る道もこれと同じなのだよ。」と。

これを聞いたソーナは、その後平穩なる修行によつてついに悟りを得たのです。

どちらにも偏り過ぎないという事を「中道」といいます。

楽に流される事はもちろんですが、極端にがんばりすぎることもお釈迦様は戒めたのです。

令和六年は立教開宗八五〇年

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我儼昭猊下のご染筆です。前々号の色紙は、兵庫県西宮市在住宇野秀和様に進呈します。ご希望の方は八ガキで住所氏名希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し二名に進呈。



戒念一味

戒念一味

永観九十二世実七



即入諸佛位

『菩薩戒經』に

『菩薩戒經』

「一切心ある者 みな
まさに仏戒を撰すべし

衆生仏戒を受くれば
即ち諸仏の位に入る

位大覚に同うし已れば
真に是れ諸仏のみ子なり」と

つまり仏教徒として

戒を授かるということは

み仏の子となること

戒名をいただく

日々 刻々 菩薩の自覚をもって
懺悔精進 いのち終るまで

令和六年は立教開宗八五〇年

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我儼昭猊下のご染筆です。前々号の色紙は、大阪府箕面市在住木下秀樹様に進呈します。
ご希望の方は八ガ玉で住所氏名希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。



絶対他力

絶対他力



永観堂主 世々



慢

法然上人六十五歳の時、浄土宗の教えを
書物として残す為、『選択本願念仏集』が編
纂されました。

その際、秀才で、達筆であつた安樂房と
いう弟子が執筆役を命じられます。

安樂房は、多くの弟子の中から自分が選
ばれた事に慢心し、浮かれてしまします。

その言動や態度から、心の驕りを法然上
人に見透かされ、途中で執筆役を解任され
てしまうのです。

仏教で「慢」は、修行の妨げになるとも
恐ろしい心であるとされています。自分
を他と比較し、自分を上に、他を下に見て
しまうことにより起こります。

「私の力で往生できるのだ」という慢心を起
こしてはいけません。驕慢の心が起こって
しまえば、たちどころに阿弥陀仏の願に背
くこととなります。

『勅伝第二十一巻』訳
と法然上人は戒められています。

令和六年は立教開宗八五〇年
総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我儼昭猊下のご染筆です。前々号の色紙は、岐阜県羽島郡在住那波樂之丞様に進呈します。
ご希望の方はハガキで住所氏名希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

